2022年度水環境文化賞を受賞して

ぼてじゃこトラスト　会　　長　川　瀬　成　吾
広報担当　佐　藤　祐　一

このたびは歴史と名誉ある日本水環境学会「水環境文化賞」をいただき，大変光栄に思います。1996年に設立しておよそ26年が経過しましたが，当初より滋賀県でタナゴ類（通称「ぼてじゃこ」）が棲める豊かな自然環境を守る活動に取り組んでおり，今回の受賞を会員皆で喜んでおります。審査にかかわっていただいた関係者の皆様に厚く御礼申しあげます。

滋賀県ではかつて多く生息していた生き物たちが次々と姿を消し，またそれを知らずに育つ子どもたちも増えています。当会はこれまで，国のレッドリストで絶滅危惧IA類に指定され，絶滅の恐れが極めて高いイチモンジタナゴの野生復帰と，子どもたちへの環境学習の機会の提供を両輪で進めてきました。最近は，スポンジエイジ世代（3-6才）や発達障害者向けプログラムの充実など，活動の新たな展開も図っております。以下では，当会が実施している主な活動をご紹介するとともに，今もなお若い世代を中心に会員数が増加しながら活動を継続できている理由についてご説明します。

活動1：イチモンジタナゴの野生復帰に向けた活動

当会では2007年よりイチモンジタナゴの繁殖実験を開始しています。実験池における複数年の実験を行い，人工繁殖を成功させたほか，2009年には大津市内にイチモンジタナゴ繁殖池（通称「ぼてじゃこ池」）を完成させ，2017年には専門家の合意形成と日本魚類学会の放流ガイドラインに沿って滋賀県内複数箇所に復元放流を行っています。市民発（初）野生復帰のモデルケースとなっています。

活動2：親子で自然に親しみ，遊び，学ぶ自然体験教室の開催

2005年に「ぼてじゃこワンパク塾」として活動を開始しました。親子が水辺の生き物とふれあい，親しんでもらう中で，豊かな感性を持った子どもたちが育つことを目指しています。県内河川における川遊びや魚とりのほか，地引き網，カヌー教室，ぼてじゃこ池を利用したサツマイモ植え・収穫，虫探しなど，月1回程度多彩な活動を行っています。2014年からは子どもたちがイチモンジタナゴの繁殖実験をベースにこどもエコクラブで発表するなど，遊びから学びへの展開を行っています。

活動3：スポンジエイジ世代（3-6才）や発達障害者向けプログラムの充実

2020年からは幼児（神経系の発達が著しい3-6才）を対象とした「スポンジエイジ生き物ふれあい教室」を年2回程度開催し，幼児から生き物好きの子どもを育てています。また，年5回程度幼児，発達障害団体を受け入れるなどプログラムを充実させています。

活動4：地域活動への指導・支援

当会会員が各地の地域活動への指導や支援活動を年間20～30回程度行っています。農業団体の観察会，小学校の出前講座，青少年支援のNPO，行政主催の体験事業など，環境学習にかかわる多様な場において指導に回っています。

同時期に設立した多くの環境保全団体が後継者不足等で悩みを抱える中で，当会は若い世代の参加者や指導者らが継続的に加わっており，会員数も増加傾向にあります。この大きな理由の一つとして，常に活動をアップデートさせながら，水環境の保全，次世代の育成を進めていることが挙げられます。イチモンジタナゴの野生復帰，子どもによるイチモンジタナゴの繁殖実験，発達障害者向けプログラムの構築など，新しいことにもチャレンジしながら，大人も子どもも楽しく活動しています。活動の様子はFacebookで随時更新していますので，ぜひご覧ください。

URL：https://www.facebook.com/botejakotrust/

写真1　地引き網活動の様子（2022年9月）